

OO TE SUJI  
追手筋遺跡

新図書館等複合施設建設に伴う発掘調査報告書



2015.12

高知県教育委員会・高知市教育委員会  
(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

# 第 I 章 序章

## 1. 調査の経緯と経過

今回の調査地は高知市追手筋二丁目に位置し、調査以前は追手前小学校であり、小学校として141年の歴史がある。また、この地は史跡高知城跡の追手門から東に延びる追手筋の南に面しており、江戸時代の高知城下町が残る可能性の高い高知郭中参考地域に当たる。この場所が高知県と高知市が計画している新図書館等複合施設建設の予定地となったことを受け、高知県教育委員会及び高知市教育委員会によって埋蔵文化財の有無及び包蔵地の範囲を確認するため調査が行われた。その結果、すべてのトレンチから近世の遺構・遺物が確認され、高知城下町関連の遺跡が存在することが明らかとなった。これらの結果を受けて、今回の調査地は新たに追手筋遺跡として登録され、建物が建設される3,600㎡について本発掘調査が行われることとなった。

調査は高知県教育委員会より委託を受け、高知県文化財団埋蔵文化財センターが行うこととなった。また、調査期間が限られていたため準備工として解体工事が終了した約500㎡について本発掘調査に先駆けて表土層の掘削を行った。準備工の期間は平成25年6月10日から7月16日までであった。本発掘調査は平成25年8月5日から平成26年2月6日まで行い、実働日は111日、延べ作業員数2,577人であった。調査面積は3,600㎡で、箇所により2～5面の遺構面が確認されたため延べ面積は9,119㎡となった。

なお、今回の発掘調査対象地の北西部に位置する旧追手前小学校の校舎が建設されていた部分については、高知市教育委員会が平成25年5月から6月にかけて本発掘調査を行っており平成27年度に報告書が刊行される予定となっている。



図1 高知城下町位置図

## 2. 確認調査(図2・3)

平成23年12月に高知県教育委員会によって調査対象地の北部について埋蔵文化財の有無及び包蔵地の範囲を確認するため調査が行われた。調査では小学校運動場の周辺に4箇所のトレンチを設定して行った(T1～T4)。調査区北東部のT1では2層の遺物包含層または整地層を確認しており、下層では近世の河道から陶磁器や木製品が出土している。T2は調査区東部に設定したトレンチで、3層の遺物包含層または整地層が確認されている。また、火災を受けた遺構面や柱穴等の近世の遺構も検出されている。T3は調査区北西部に設定されたトレンチで、近世後期の遺物包含層または整地層と杭列が確認されている。T4は調査区西部に設定されたトレンチで、4層の遺物包含層または整地層と溝跡等の遺構が確認されており、陶磁器片や木製品も出土している。第13～15層からは図示した志野焼向付(1)や中国漳州窯系とみられる青花皿(2)が出土している。

調査の結果、すべてのトレンチから近世の遺構・遺物が確認され、高知城下町関連の遺跡が存在することが明らかとなり、追手前小学校構内で新たに発見された遺跡について追手筋遺跡と命名された。

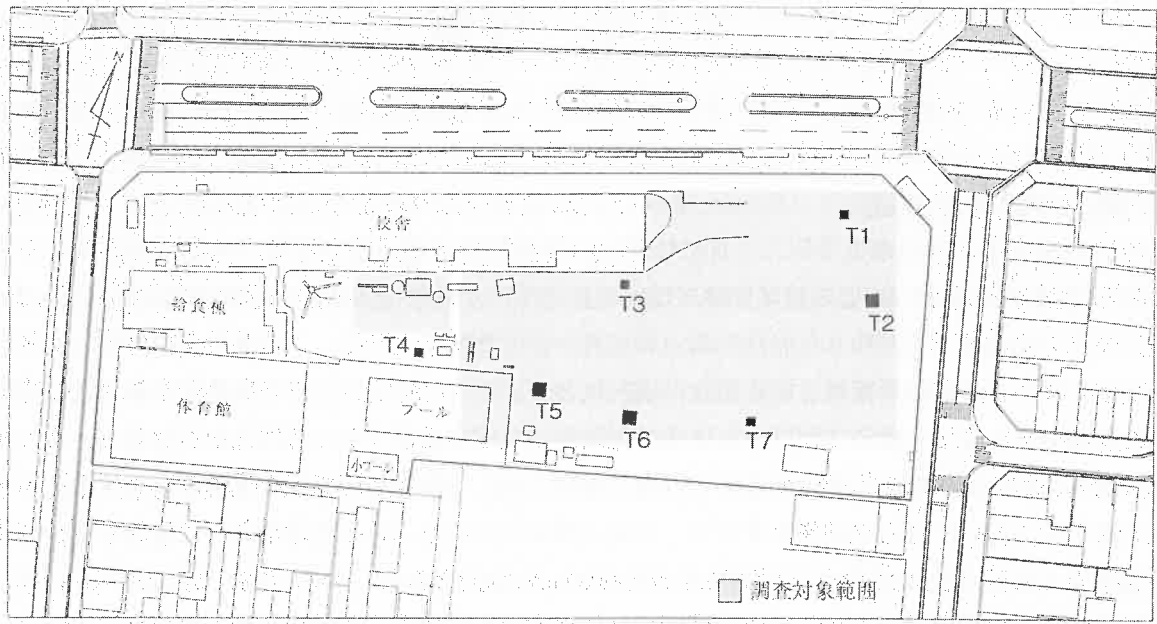


図2 確認調査位置図(S=1/1,500)

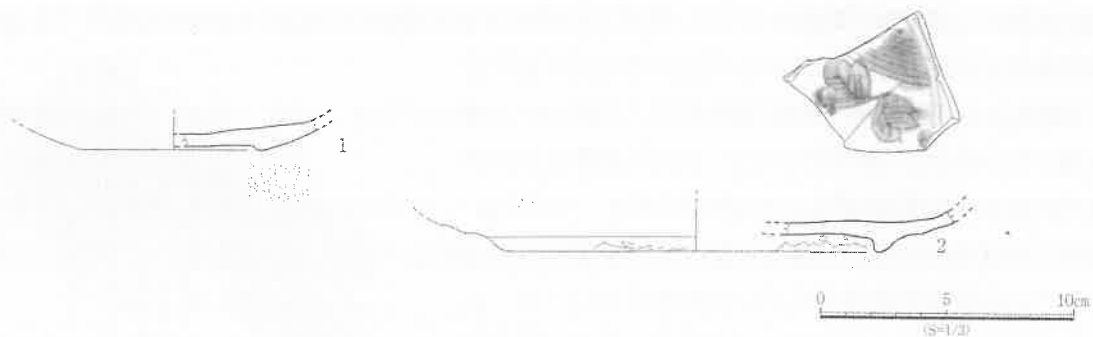


図3 確認調査出土遺物

さらに平成24年8月には高知市教育委員会によって調査対象地の南側についても確認調査が行われた。調査区南部の3箇所にトレンチを設定して行った(T5～T7)。調査区南西部に位置するT5では近世後期の遺物包含層または整地層が2層確認されている。調査区南部に設定されたT6では木製品が出土する遺物包含層が確認されている。調査区南東部に設定されたT7は地表下80cmまでの調査が行われたが、コンクリートの基礎が深部にまで及んでいると予想されたため下層の確認には至っていない。これらの結果より、近世の遺物包含層が確認され、遺跡の範囲が南にも広がっていることが判明し、調査対象地について調査が必要であると判断された。

### 3. 調査の概要

追手筋遺跡は史跡高知城跡の追手門から東に延びる追手筋の南に面しており、高知城より約200m東に位置する。江戸時代の絵図によると概ね二つの屋敷が存在し、家老である山内家や百々家、藩医である村田家が居住していたとされる。山内家は藩主山内家の分家であり、百々家は築城惣奉行として高知城築城に関わっており、土佐では著名な家老である。

今回の調査以前は郭中参考地とされていた場所であったが、確認調査によって江戸時代の遺構が

確認され、発掘調査を行うこととなった。また、高知城下町の調査事例は極めて少ないが、今回の調査面積は3,600m<sup>2</sup>を測り、高知城下町で最大の面積となっている。

調査では江戸時代初頭から幕末までの多量の陶磁器や木製品が出土しており、中でも約200点を数える木簡の出土は県内最多である。木簡の多くは荷札木簡であり、その中には「百々出雲」「山内蔵人」「村田」といった絵図に記載されていた名前が書かれた木簡もあり、絵図に書かれていた人物が実際に居住していたことも判明している。

さらに、桶や竹樋を用いた江戸時代の上水施設が確認されたほか、全国的にも類例が少ない武家屋敷に伴う池跡が確認されるなど非常に貴重な成果が上がっている。

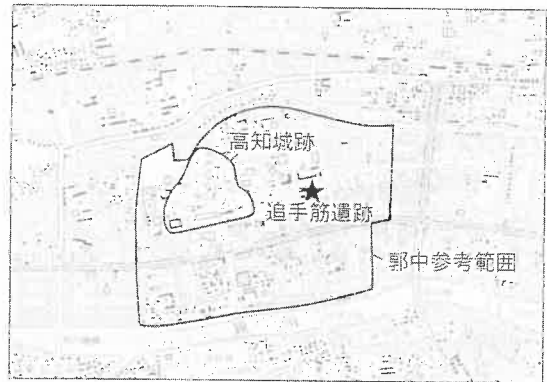


図4 追手筋遺跡位置図(S=1/25,000)

#### 4. 調査の方法

旧追手前小学校跡地内に基準点を4点設置し、世界測地系の国土座標と標高を測量に用いた。また、調査区北西部のX=62244, Y=3384を原点としてA1と呼称し、A1より東に算用数字、南にアルファベットを配し、調査区内に4mグリッドを設定した。遺構の測量は全て人力で行った。

調査は、基本的に表土層と近代の遺物包含層を重機で掘削し、江戸時代の遺物包含層は遺物の出土状況により適宜重機と人力で行い、遺構の調査は人力で行った。また、解体工事と併行して調査を行った期間もあり土置き場を確保するため調査区をI～IV区として4箇所に分け、I区から順に調査を行った。廃土は敷地内の調査対象地でない箇所または調査が終了した箇所に4tダンプで運び調査を行った。

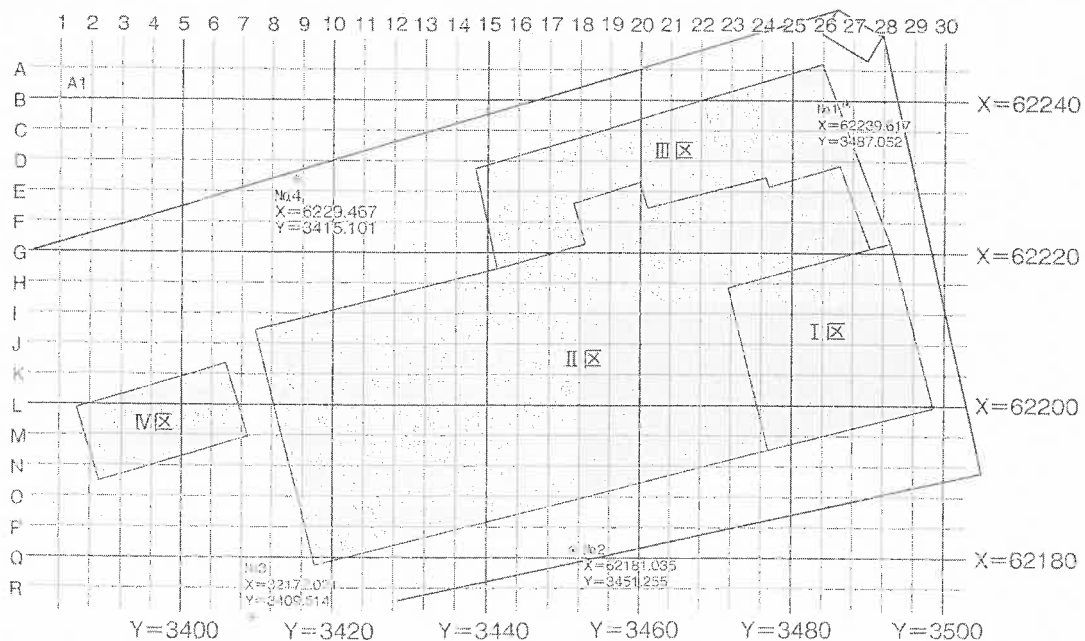


図5 グリッド及び調査区設定図(S=1/1,000)